

論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 第 1201 号	氏 名	生山裕一
論文審査担当者	主 査 藤永康成 副 査 本田孝行・清水公裕		
<p>(論文審査の結果の要旨)</p> <p>肺 MAC 症 (<i>Mycobacterium avium complex</i>: MAC) は肺非結核性抗酸菌症 (non-tuberculous mycobacteria: NTM) の最も多い原因で、本邦において肺 MAC 症は NTM のうち 89% を占め、近年肺 MAC 症患者は中年女性患者において増加している。これらの患者では、特に画像上の分類で結節気管支拡張型 (Nodular bronchiectasis type: NB 型) が多くとされている。一方、男性の肺 MAC 症患者では、線維空洞型 (Fibro-cavitary type: FC 型) が多く予後も悪いとされているが、男女差を比較した報告はない。本研究の目的は、肺 MAC 症の男性患者の臨床的特徴を明らかにすることである。</p> <p>2003 年から 2016 年の間に信州大学医学部附属病院外来を受診した患者を診療録より後方視的に抽出した。本研究では、肺 MAC 症は、米国胸部疾患学会 (ATS) と米国感染症学会 (IDSA) から合同で発表された statement によって診断した。臨床データは診断時から 1 か月以内の結果を用いた。画像は、HRCT にて NB 型、FC 型、その他に分類した。病勢の悪化は、症状の増悪、画像の増悪、または微生物学的な増悪などより総合的に判断した。</p> <p>その結果、生山は次の結論を得た。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 研究期間中、対象患者は 234 名 (男性 68 名、女性 166 名) であった。診断時の平均年齢は、女性よりも男性の方が高かった ($P < 0.001$)。2. 画像所見に関して、男性では 57 名 (83.8%) が NB 型、6 名 (8.8%) が FC 型 (7.4%) であった。女性では 155 名 (93.4%) が NB 型、7 名 (4.2%) が FC 型であった。男性、女性の間有意差を認めなかった ($P = 0.067$)。3. 男女で BMI に有意な差を認めなかった。男性の方が女性より多剤併用療法が施行された患者は少なく ($P < 0.001$)、喫煙歴、アルコール摂取量は有意に多かった ($P < 0.001$)。診断時のリンパ球数、TP、ALB は男性の方が女性より有意に低値であった (それぞれ $P = 0.034$、$P = 0.01$、$P < 0.001$)。4. 男性の方が女性より有意に悪性腫瘍、COPD の合併が多かった ($P = 0.002$、$P < 0.01$)。5. カプランマイヤー法にて比較し、増悪までの期間に男女で有意な差を認めなかった ($P = 0.67$)。 <p>これらの結果より、本研究期間における男性肺 MAC 症における NB 型の割合は、既報と比較し増加していること、および、病勢の増悪までの期間は男女で有意な差を認めないことが明らかとなった。よって、主査、副査は一致して本論文を学位論文として価値があるものと認めた。</p>			

